

特集にあたって

齋藤 嘉博

昨年1月の阪神・淡路大震災を契機に個人・企業・社会人としての危機管理がクローズアップされた。そこで、丸の内OR研究会*では平成7年度の春季研究会のテーマとして「危機管理」をとりあげた。講演をお願いした方々は、学界、行政、損害保険、情報通信の分野の方、さらに阪神・淡路大震災の現地の方、計5名である。

昨年は大震災に始まり、サリン事件や各種の銃撃事件が多発し、安全な国日本というイメージが崩れてしまった。ここで一度、各種の観点から、「危機管理」を見直し、今後の対策を考えるという意味で、本特集をお読みいただければ幸いである。

本特集の話題を提供した丸の内OR研究会ではゲストスピーカより1時間余りの講演をいただき、その後、質疑応答を1時間程度という形式で開催している。本研究会はこの質疑応答に特色があり、それぞれの権威の講演者にざっくばらんな質問がなされ、他に類を見ない研究会となっている。その雰囲気はいささかなりとも読者にお伝えするため講演をベースにした本文のあとに主な質疑応答を記録した。なお質疑応答の内容を本文の中に盛り込まれた執筆者もおられるため別立てになっていない論文もあることをお断りしておく。

本特集の内容を次に紹介する。

まず最初に、「リスク・マネジメントの概念と実務ーリスクを正しく理解して適切な対策をー」と題して、富士短期大学教授の市川 彰氏に、リスク・マネジメントの全般的な考え方をご紹介いただく。研究会の第1回目のご講演として、まことに広範なサーベイであった。本論文により、各種のリスクに対する対策をご理解いただこう。

次に、東京都の災害対策部防災計画課長 和田 正幸氏に、「阪神大震災に学ぶー東京都の震災対策ー」についてご講演いただいた。災害に学ぶというのは、震災に遭われた方々には失礼ではあるが、やはり非常に

さいとう よしひろ 武蔵野美術大学
〒187 小平市小川町1-736

大切なことであろう。わが国の機能が極端に集中している東京において、その対策がどのように打たれているか、読者も興味をお持ちのことと思う。

さらに、そういった大規模災害時の各種保険による保証はどうなっているのか。それに関して、三井海上火災保険(株)常務取締役の井口 武雄氏が、損害保険業界として、「大規模災害リスクへの対策」をいかにしているかご講演された。地球規模的に自然災害と保険支払のメカニズムが紹介されている。

次に、昨年1月17日に兵庫芦屋市で大震災に遭われた元本学副会長で、兵庫県の副知事も務められた芦屋大学学長の小笠原 暁氏より「災害の現場から」と題して、リアルな状況と具体的な復興策に関するご講演があった。行政、学界双方のご経験、さらに大震災のご体験にもとづいた内容である。

ところが、昨年の大震災では、被災者の安否情報の確認に関して、従来の電話型の通信の脆弱性が露呈され、インターネットや携帯電話等が一躍脚光を浴びた。NTT理事・サービス生産本部ネットワーク部長の石川 宏氏から、「情報通信ネットワークの危機管理」と題して、災害・事故による通信断・輻輳の発生とともに発展してきた取組みおよび今後の対策が紹介された。

以上、さらに詳しく各論文をお読みいただくこととしたいが、ご多忙の中、このような企画に対して快くご講演をお引き受けくださり、さらに本特集にご寄稿いただいた関係の方々に厚く謝意を表す。また、「危機管理」をテーマとした研究会の実施、ならびに本特集号の編集にあたりご尽力された企画委員の川島 幸之助氏（NTT通信網研究所）をはじめとする方々にもお礼申し上げたい。

*「丸の内OR研究会」はOR学会の研究普及活動の一環として、各界第一人者による広範かつ先進的な話題の提供とメンバー同士の交流による相互啓発を目的として平成4年10月に発足した任意の研究会である。もともと丸の内の日本工業倶楽部で開いていたので「丸の内」と冠しているが、最近神田の学士会館を会場としている。さらに多くの方々が参加されて、新しいORへの糧としていただきたい。